

2018年3月27日

報道関係者各位

宇部興産株式会社  
株式会社キュラディムファーマ

## LPA1 アンタゴニストに関するライセンス契約締結について

宇部興産株式会社（社長：山本謙、以下「宇部興産」）と株式会社キュラディムファーマ（社長：内ヶ崎哲、以下「キュラディムファーマ」）は、この度、宇部興産の保有するリゾホスファチジン酸受容体1（LPA1）選択的アンタゴニスト（開発コード：CP2090、以下「本化合物」）に関するライセンス契約を締結しましたので、お知らせいたします。

本契約により、キュラディムファーマは、全世界を対象として本化合物及び本化合物を用いた製剤を開発、製造及び販売するための権利を獲得します。なお、本化合物の原薬を開発、製造及び販売するための権利は、引き続き宇部興産が保持します。

本化合物は、特発性肺線維症（IPF）や非アルコール性脂肪肝炎（NASH）などの線維症<sup>\*1</sup>の治療薬となることが期待されます。IPFは、原因不明の間質性肺炎の一種で、診断後の平均生存期間が3～5年間とされる極めて予後不良の疾患です。また、NASHは、脂肪肝疾患の中でも炎症や線維化を伴うもので、肝硬変又は肝がんに進行する可能性があると考えられています。LPA1は、線維芽細胞の遊走やサイトカイン産生等を介して、これら疾患の病態の発生及び進行に関係すると考えられています。宇部興産及びキュラディムファーマは、優れたLPA1選択的アンタゴニストである本化合物が、IPFやNASHなどの線維症の治療薬として、これらアンメットメディカルニーズの高い疾患の治療に大きく寄与できることを期待します。

宇部興産は、技術革新にあふれた「クスリづくり」を地域から発信し、すべての人々の健康に貢献することを目指しています。これまでに難治性疾患であるIPFをターゲット疾患とし、LPA1選択的アンタゴニストの創薬研究に取り組んだ結果、本化合物を見出しました。今後、スピード感を持って本化合物の開発を進め、速やかに治療の現場に届けることができるよう、キュラディムファーマへのライセンスを決定いたしました。

キュラディムファーマは、2016年6月の設立以来、有望な創薬シーズの探索に注力してまいりましたが、この度、多くの候補品の中から本化合物を選定し、既に開発を進めているCP1050に次ぐパイプラインとして導入することを決定いたしました。キュラディムファーマは、本化合物について、本年中にGLP<sup>\*2</sup>に準拠した非臨床試験を開始する予定です。

## 宇部興産株式会社について

宇部興産は、化学を中心として、医薬／建設資材／機械／エネルギー・環境の各事業を展開しています。その中で医薬事業は積極拡大事業の一つと位置づけており、医薬研究所において薬効を示す物質を探し、製薬メーカーと共同で事業化を目指す「創薬」と、医薬品の成分を作る「原薬・中間体製造」という2つの柱から成り立っています。

詳細については、当社ホームページ (<http://www.ube.co.jp/>) をご参照ください。

## 株式会社キュラディムファーマについて

キュラディムファーマは、日本に眠っている有望な創薬シーズを発掘し、非臨床試験から早期臨床開発までを専門的に行うパイプライン型創薬ベンチャーです。日本発の画期的新薬を開発し、アンメットメディカルニーズの高い疾患の治療に貢献することを目指しています。

詳細については、当社ホームページ (<http://curadim.co.jp>) をご参照ください。

### 【語句説明】

- \*1 線維症は、肺、肝臓又は腎臓などの生命活動に重要な臓器に炎症が起こり、その回復の過程でI型コラーゲンなどの膠原繊維が集積することで、臓器が弾性を失って硬化し正常な役割が出来なくなる疾患とされています。
- \*2 Good Laboratory Practice の略で、日本語では「医薬品の安全性試験の実施に関する基準」。非臨床安全性試験を適切に実施してデータの信頼性を確保するための基準です。

### <本件に関するお問い合わせ先>

宇部興産株式会社 経営管理室 IR広報部  
東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館  
電 話：03-5419-6110

株式会社 キュラディムファーマ 経営管理部  
東京都千代田区大手町一丁目9番2号 大手町フィナンシャルシティグランキューブ3階  
電 話：03-4243-8654 (代表)